

2023年 4月 30日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名.....(特非)東大和エネルギーの会.....
代表者・役職名 氏名 共同代表 井上皆子.....

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

「脱炭素で つながろう ひろげよう 環境市民」

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

地球規模での気候変動と生態系破壊の進行、かつ東日本大震災・原発事故を経験し、東大和市でもエネルギー、脱原発、環境保全の講座、学習会などが多数行われた中で、地域からエネルギーの地産地消、自産自消に取り組もうと、2014年3月に、有志が集って活動を開始した。現在会員数は18名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

脱炭素への急速な取り組みが求められているが、そのための具体的な行動を市民の生活レベルでどのように起こしていくか。特効薬はなかなかない中で課題解決の協議の場を作るため他団体(多摩地域等)の活動に学び、協働のあり方を追求する。エネルギーの地産地消によって得られた利益を地域に還元していく好循環の実例を可視化する。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

○環境を自分事として考える自覚的な「環境市民」を増やすために、地域循環共生圏プラットフォームへ参加し、推進団体と協力して、連携する担い手を探す活動をする。
○ソーラーシェアリング先進地域への見学・学習と交流のための研修会を実施し、市内農業者や行政へフィードバックし、市内でソーラーシェアリング設置に向け活動する。
○行政が避難所で使用する非常用電源運用の研究及び提言。
○東大和市の再エネ利用家庭の調査(エネルギー調査隊)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果;ソーラーシェアリング見学会、参加者15名。地域循環型プラットフォーム作りの講演会、参加者15名、地域新電力の課題と地域貢献の講演会 参加者18名。再エネ設置率の調査を2地区で行った。
成果;農業と再生可能エネルギー創出の組み合わせで耕作放棄地問題の解消、地域新電力の実践と社会還元の実例を学び行政や市内事業者への実例提示。住宅地における屋根利用の再エネ推進に向けての実数調査
効果;行政、事業者への政策提言の具体的な材料を得た。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

ソーラーシェアリング先進地域は、行政単位すべてをカバーする匝瑳市のソーラーシェアリング見学を予定していたが、コロナ禍が続いている中でより近隣の相模原市のソーラーシェアリングとブルーベリー観光農園を組み合わせさせた事業の見学に変更。また、太陽光発電機器を購入してのモニタリングは新規の応募者がおらず、とりやめとした。より若い世代への遡及が早急に求められる。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください



2022/8/20 ソーラーシェアリングの実践例を見学（さがみこベリーガーデン研修）

2022/8/20 東大和エネルギーの会は、相模原市のさがみこベリーガーデンを見学しました。

旧津久井町の耕作放棄地（複数の方々が所有）を開墾。多くの地主さん、地元農家の人たちとの関係、農業委員会との関係をゼロから作り上げて3年で観光農園が発足（2023年開業、2022はプレオープン）。

東大和市の食とエネルギーの自給をめざすものにとってもそのチャレンジは大いに参考になります。

（この事業は、真如苑の「多摩地域市民活動公募助成」の助成を受けて実施しました）

